

# 大阪万博 エピソード 地図

大

大阪万博ではなんでも初めての経験のため、数々のハプニングが起こった。まずは起工式で地鎮祭を行うとき、おはらいをするのだが、敷地面積があまりに広いものだからって神主さんはヘリコプターで空を飛んでおはらいをして清めた。

カナダ館というパビリオンは3万枚の鏡を5センチ幅にタイルのように張り付けたけれど、屋外での鏡張り作業で、周囲のパビリオンの建設現場から「まぶしくて仕事ができないぞー」と苦情が寄せられたという。

シンボルゾーンには岡本太郎という人が建てた「太陽の塔」がそびえていたけれど、男がこれに登ってしまって舌捲するという事件もあった。彼は龍城しているうちに「目玉男」といわれるようになった。

太陽の塔の黄金の顔の左右の目玉の中には、5キロワットの電球が入っており、毎日夕方6時に点灯することになっていただけけれど、点灯すると、目玉の中にすわりこんでいる男が焼け死ぬおそれがあるから、男がすすわっている間は点灯できなかった。とはは……。

そして、万博会場で生まれたタイのゾウの子どもには「ヒロバ」（お祭り広場にちなんで）という名前がつけられたんだって。

日経研究家 串間 努

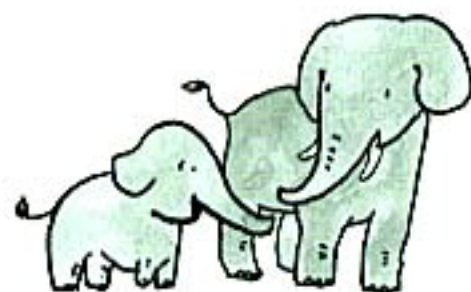


## 入館には 長い行列

子どもたちは並んで待つ間も情報交換。待っている間も楽しんでいた。中には外国人のふりをして割り込む人もいたらしい（はずかしい）。人気ベスト3はソ連（今のロシアなど）館、アメリカ館、スイス館。

## チェコ大使の 山高帽子が盗まれる

盗んだ人の話では、おみやげにいいなーと、思ったとのこと（とんでもない）。帽子といえば、このころは子どもたちにテンガロンハット（カウボーイの帽子）が流行った。万博会場でもみんなかぶっていた。



## ヘリコプターで 安全祈願

広い会場だからと、空から安全祈願のおはらいをしてから建設が始まった。スケールが大きいぞとアピールするのにびったりの話題だった。おそなえ物はどうしたんだろう。

## タイからゾウが やってきた

タイのお祭りが催される日にあわせて、神戸港から会場までなんと、歩いてゾウがやってきた。四頭の子ゾウには「バン」「バク」「エキス」「ボー」という名前がつけられていた。期間中に新しい子ゾウも誕生。

## 人間洗濯機って どんなもの?

これはジョーク。本物はお風呂みみたいなカプセルに頭を出して浸っていると、中でカラーボールが回って体に当たり、洗える仕組み。当時見た人は「気持ちよさそう。でも、頭はどうやって洗うのが?」と思ったそうだ。

## 外国人コンパニオンは サイン責め

外国人がまだまだ珍しかったため、外国人のサイン集めが流行った。有名人じゃなくて普通の人のためにね。どさくさに紛れて髪の毛を抜く子どももいたって。信じられないけど、ほんと。



## 新潟版 ホームアローン

たくさんいた迷子の中には、お父さんお母さんが新潟に帰ってから気がついたというケースもあったとか。新潟県のカルクンくん、大丈夫だったのかな。それから、子どもたちだけで、家出して会場に来る子もいた。

## たとえ芸術でも まくらはまくら

変わった形のパビリオンを見るのも楽しみだった。でも、わざと建てかけを装った「せんい館」を見て「まだできてないからやめとこ」という人も。ここに展示されていた前衛芸術の枕で寝巻をしてしまう人もいたそうだ。

